

---

妹

融

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

妹

### 【コード】

N1607G

### 【作者名】

融

### 【あらすじ】

血が繋がっているのに、妹を好きになってしまった。

(前書き)

期待しちや駄目。

俺は変だ。

俺には二つ下の妹がいる。

血は繋がっている。

俺はその妹が好きだ。

勿論、兄妹としてではなく、異性としてだ。

妹はそんな事には全く気付かず、兄である俺に接している。

俺は自分の気持ちを抑えて、兄として妹を一生守り続けようと決めた。

それが一番だと思ったから。

妹に恋人が出来たら、俺など必要ないだろう。

一生は守れないだろう。

せめて、恋人が出来るまで、守りたい。

それだけは許して欲しい。

兄の最後のわがままだと思って。

いつも通りの朝。

妹が喋りかけてきた。

「今日、一緒に学校行かない？」

俺は嬉しかった。

例え、妹にこの想いが伝えられなくとも、今この瞬間を大事にしたかった。

「いいよ。」 そう答えた。

妹は嬉しそうにして、朝食を食べていた。

それを見ているだけで幸せだった。

妹と登校。

一年半ぶりだった。

一緒に登校しなくなつた理由は覚えていない。

何を話せばいいのか？分からない。

妹は隣を歩いていて。

兄妹と知らない人が見たら、恋人に見えるかもしれない。そんな事を考えてしまつて、余計話せなかつた。

結局、登校中一度も妹と話さなかつた。

話せなかつた自分を悔やんだ。

多分もう、妹は俺とは登校しないだろう。

何も喋らない俺ではつまらないだろうから。

あつという間に学校が終わつた。

家に帰りたくなかつた。

そんな気分だつた。

原因は妹だが。

そんな事で友達を誘つてゲーセンに行った。

何も考えず遊んだ。

遊び終わった頃には夜遅かつた。

家に帰つた。

親にいろいろ言われそうだったので、部屋に逃げた。

ドアをノックしてきた。

ドアを開けると親ではなく妹がいた。

取り敢えず、部屋に入れた。

妹が座つた。

俺も座つた。

少しの間沈黙があつた。

俺にはものすごく長く感じた。

そして

「私、好きなの。」

誰が？

「お兄ちゃんのことが好きなの。」

世界が止まった気がした。

「兄としてじゃなくて、男の人として。」

そう続けた。

妹が俺のことを？

ここで俺は自分も妹が好きなことを言える。  
でも、それでいいのか？

それが、妹のためなのか？

血の繋がった兄妹が恋人になっていいのか？

いや、良くない。

多分、親は猛反対するだろう。

俺か妹を遠くに行かせるだろう。

なら、俺がとるべき行動は…。

「冗談はやめろ。」

冷たく言った。

「ごめんなさい。」

妹は部屋から飛び出していった。

これでよかったんだ。

これで…

涙が溢れてきた。

俺は久し振りに泣いた。

次の日、妹は首を吊って自殺した。

俺の判断は間違っていたのだろうか？

俺は最善の選択をしたはずだった。

分からない。

何がいけなかったのだろうか？

俺は妹を守るはずだった。

守ると決めた。

なのに、俺は守れなかった。

この世で一番大切なものがなくなった今、生きる意味がなかつた。

そして、俺は…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1607g/>

---

妹

2010年11月7日09時14分発行